

平成の時代  
うなぎのぼりに成長を遂げた  
浜松市

# 30の軌跡

30年間続いた平成の時代に、大きく姿を変え元気に成長・発展を遂げた都市がある。それは東京と大阪の中間に位置する「浜松市」だ。平成に入ると、産業面と文化面における新たな展開と個性ある都市づくりにより、浜松のランドマークとなるアクトシティの建設をはじめ、浜松駅周辺の再開発事業を進めた。平成17年には、天竜川・浜名湖地域12市町村が合併し、全国1741の市区町村の中で面積が2番目に大きい国土縮図型の都市が誕生。県庁所在地でも、大都市近郊でもない街でありながら、自律的な発展により平成19年には政令指定都市へと成長した。これは全国的にも稀有なケースである。新しく誕生した浜松は、この地に根付くものづくりの伝統を生かした「産業創造都市」と、音楽の都づくりを核とする「文化創造都市」の形成を軸に展開する。先人たちの高い創造性とたゆみない努力の賜物に甘んずることなく、レガシーを引き継ぎ、新しい価値や文化、産業を創造する活動を精力的に推進してきた。その結果、平成30年、全国20の政令指定都市の中で、「幸福度ランキング」総合1位という栄誉に輝いた。そんな浜松で、平成の30年間、産業、文化をはじめとする各分野で何が起こり、どう成長してきたのか。記憶に残る30のコトに焦点をあてながら、浜松の未来像を探っていく。



年	主な出来事	No
平成 31年 (2019)	東名高速道路 館山寺スマートIC開通	29
平成 30年 (2018)	大河ドラマ「いだてん」放送開始 奥浜名湖のみかんとネーブルを平成最後の皇室献上	6
平成 29年 (2017)	政令指定都市 幸福度ランキングで日本一	8
平成 28年 (2016)	新東名高速道路 (浜松いなさJCT)・豊田東JCT開通 大河ドラマ 「おんな城主直虎」放送開始	5
平成 27年 (2015)	太陽光発電導入量日本一 出世大名家康くんがゆるキャラグランプリで第1位を獲得	11
平成 26年 (2014)	天野浩教授が青色LED開発でノーベル物理学賞を受賞	13
平成 25年 (2013)	浜松・浜名湖太陽光発電所が運転開始	1
平成 24年 (2012)	三遠南信自動車道 (鳳来峡IC)・浜松いなさ北IC開通 新東名高速道路 (御殿場JCT)・浜松いなさJCT開通	21
平成 23年 (2011)	上原ひろみがグラミー賞を受賞	27
平成 22年 (2010)	健康寿命日本一 (以降25、28年と3回連続で日本一) FSC森林認証を取得	7
平成 21年 (2009)	電子式テレビジョン開発がIEEEマイルストーンに認定	14
平成 20年 (2008)	天竜湖サミットでカネタ太田園の煎茶振る舞い 鈴木孝幸が競泳で金メダルを獲得	2
平成 19年 (2007)	阿多古川が平成の名水百選に選定 総務省家計調査でうなぎかば焼き購入額が日本一(以降11連覇中)	30
平成 17年 (2005)	天竜川・浜名湖地域12市町村が合併し新浜松市が誕生 政令指定都市へ移行、人口80万人を達成	9
平成 16年 (2004)	浜名湖花博2004が開催	23
平成 15年 (2003)	人口60万人を達成	28
平成 14年 (2002)	大規模選果施設が完成 浜松ホトニクスが光電子増倍管がノーベル賞受賞に貢献(27年にも貢献)	1
平成 13年 (2001)	JAみづかびに	12
平成 9年 (1997)	鈴木尚典が2年連続セリーグ首位打者獲得	29
平成 8年 (1996)	アトラクタパラリンピックで河合純が競泳で2個の金メダルを獲得(12年、16年の大会でも金メダル)	26
平成 7年 (1995)	アクトシティ浜松がオープン 浜松市楽器博物館が開館	23
平成 6年 (1994)	鈴木重子がNYのフルノットでデビューライブ	9
平成 5年 (1993)	武田修宏がJリーグベスト11に選出	20
平成 4年 (1992)	ヤマハ、カワイが消音ピアノを発売開始	19
平成 3年 (1991)	バルセロナオリンピックの陸上で杉本龍男、競泳で漢人陽子が活躍	25
平成 3年 (1991)	第1回浜松国際ピアノコンクール開催	15
平成 3年 (1991)	主な出来事	18
		No